

氏名	梶 川 隆
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第3091号
学位授与の日付	平成9年3月25日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Time-dependent alterations of serum levels of triple-helix domain and 7s domain of type IV collagen in patients with acute myocardial infarction after succesful reperfusion: Limited relation to left ventricular indices (急性心筋梗塞後再灌流成功例のIV型コラーゲンのトリプルヘリックスドメインと7Sドメインの血清レベルの経時的推移の解析: 左室機能の指標と限界)
論文審査委員	教授 大江 透 教授 菅 弘之 教授 佐野 俊二

学位論文内容の要旨

IV型コラーゲンは筋細胞の基底膜に存在し、基底膜構造ばかりか細胞機能にも影響を及ぼす。今回著者らは、IV型コラーゲンのトリプルヘリックスドメインと7Sドメインの血清レベルの経時的推移を解析し、左室機能の指標との関連を初めて解明した。初回急性心筋梗塞24時間以内に冠動脈形成術による再灌流療法を施行した連続15症例よりIV型コラーゲンのトリプルヘリックスドメイン、7Sドメインの血清レベルをそれぞれ1段階サンドイッチイミュノアッセイ法、2重抗体ラジオイミュノアッセイ法を用い測定した(入院当日、第2,3,4,5,7,10,14,28病日)。左室容量指標は、梗塞発症4週間後の左室造影にて評価した。トリプルヘリックスドメイン、7Sドメインは、それぞれ第5、第3病日、に最大値となった。両ドメインの血清レベルはピークレベルに達した後、指数関数的に減少した。両血清レベルのピーク値は梗塞後の左室駆出率と有意な相関を示したが、相関係数は比較的低い値であった。心筋梗塞によるIV型コラーゲンの変性がこれらの経時的推移を反映しており、血清レベルのトリプルヘリックスドメイン、7Sドメイン測定は従来使用されているCPK, ミオシン軽鎖と同様、臨床的に必ずしも満足のいくものではないが、ある程度、梗塞後の左室駆出率を予測する指標となり得ることが示唆された。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論文審査結果の要旨

本研究は心筋梗塞後のIV型コラーゲンのトリプルヘリックスドメインと7Sドメインの血清レベルの経時的経過を解析した研究であるが、従来十分確立されていなかった急性心筋梗塞患者のIV型コラーゲンに関して重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。